

畜産

実況

1 平成27年度第24回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成28年3月7日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井	10	2,680	1,271,760	7.5	474.1	57.9	90
	全体	28	2,752	1,297,031	7.3	469.2	56.8	86
雌	福井	13	2,671	1,196,261	6.9	446.8	58.7	77
	全体	17	2,610	1,162,531	6.5	443.2	57.0	71

最高価格は、1,523,499円、去勢牛(美津百合×安平×北国7の8)、28.6カ月齢、A-5(BMSNo9)、枝肉重量539.0kg、ロース芯面積77cm²であり、富山県産であった。枝肉単価は、前回より、去勢で158円高く、雌で333円高かった。

2 平成27年度第25回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成28年3月21日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井	14	2,667	1,235,505	6.8	464.0	55.2	93
	全体	28	2,572	1,219,808	6.4	475.0	53.9	86
雌	福井	7	2,537	1,219,598	6.6	481.3	55.9	71
	全体	18	2,636	1,149,720	6.9	438.3	55.1	83

最高価格は、1,464,192円、去勢牛(北平安×平茂宏×北国7の8)、28.8カ月齢、A-5(BMSNo8)、枝肉重量460.0kg、ロース芯面積51cm²であり、石川県産であった。枝肉単価は前回より、去勢で13円安く、雌で134円安かった。

対策

飼料作物

今年の生産を高める施肥

牧草が必要とする時期に、養分を必要量吸収させることが必要である。牧草は、春の伸長期にもっとも多く成長し、夏以降は秋に向かって少しずつ減少する。そのため、採草利用の場合、生産量も1番草の時期が多く年間収量の半分を占め、2、3番草と順次減少していく。

年間3回刈りの場合、年間施肥量は早春の追肥で全体の6分の3、1番草後に6分の2、2番草後に6分の1と3：2：1の割合を心がける。

放牧利用の場合、早春の再生草は、いわゆる“スプリングフラッシュ”となり、1日当たりの生産量は最高となる。

施肥は牧草生長を促すため早期に実施する。リン酸は低温で高い肥効を示すので年間施用量の全量を施肥し、窒素と加里は年間施用量の3分の1以下に調整する。

また再生草の有効な利用法として、①牧草が伸びすぎないように頻りに転牧する、②早春施肥を省略する、③早期放牧により伸長茎を抑制する等が有効である。